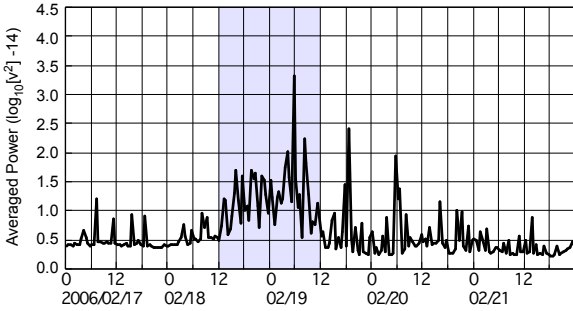


雌阿寒岳

○地震波パワーの時間変化と観測波形（2006年2月18日～の活動との比較）

2006年の活動1回目

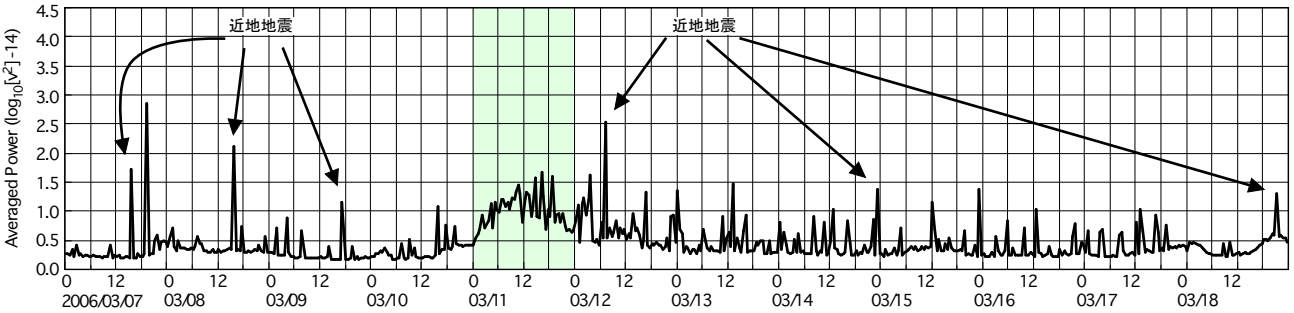


2年前の活動と比較するために、地震波の平均パワー（速度2乗振幅の30分毎平均値）の時間推移を求めた。2年前の前兆地震活動と本年の活動は、どちらも群発地震活動開始から24時間程度で地震活動のピークを越えたことが明瞭に分かる（図1参照）。

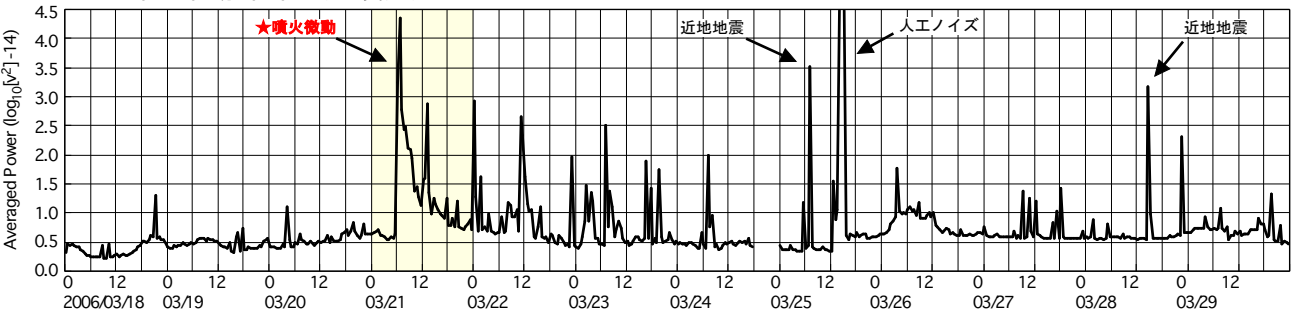
しかし、地震の発生間隔が異なるため、平均パワーグラフの凹凸は2年前の活動の方が激しいように見える。2年前の活動は明瞭なP,S相を持つ地震から開始したが、本年の活動は継続時間が数10秒の連続的な振動の集まりから始まった。3月11日の2回目の群発地震の中には、本年の活動と類似した継続時間の長い地震がいくつか認められる（図2参照）。

本年の活動では1月14日頃からP,S相のはっきりした地震が認められるようになってきた。

2006年の活動2回目



2006年の活動3回目（小噴火）



2008年の活動

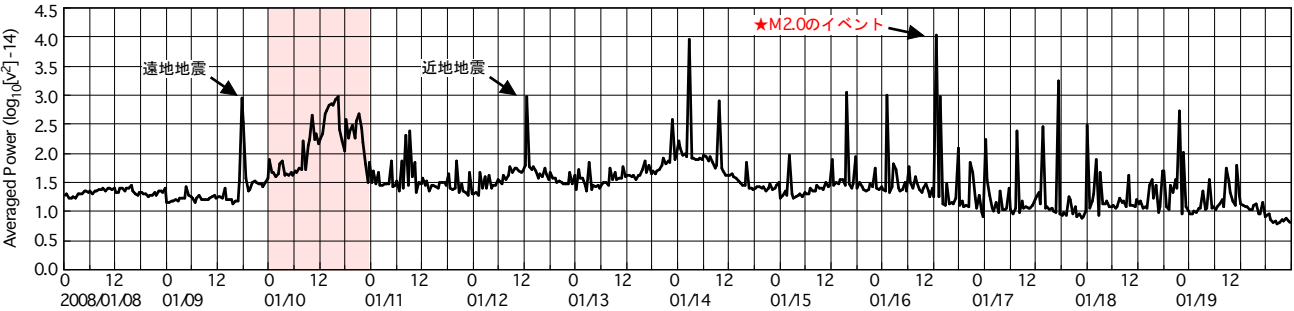


図1. (1～3段目)2006年2月18日から、3月7日から、3月18日からの活動の平均パワー時間変化(観測点P1). (4段目)2008年1月9日からの活動の平均パワー時間変化(観測点ONT).

雌阿寒岳

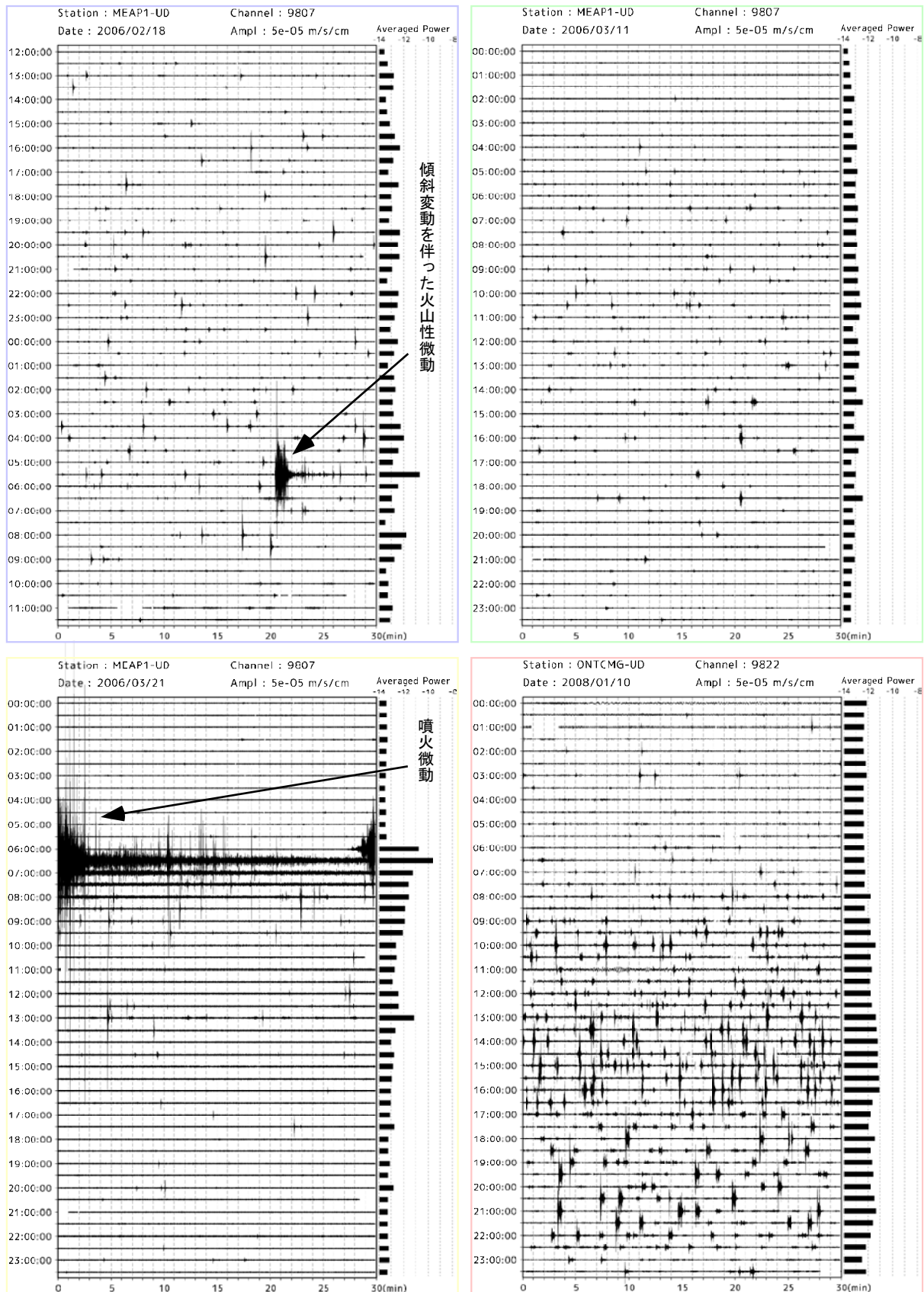


図2. (左上・右上・左下)2006年2月18日12時から, 3月11日0時から, 3月21日0時から24時間波形(観測点P1). (右下)2008年1月10日0時から24時間波形(観測点ONT). いずれも図1にハッチをつけた時間帯に一致する. (青山) 雌阿寒岳